

第2学年 国語科 指導者：馬場 美奈恵

1 スローガン 「国語の力を基礎的・発展的に身に付けよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・ 常用漢字を身に付けるためには、ワークやノートを用いて、繰り返し学習を行う。
- ・ 正しい文章を書き、言葉をつかう力を付けるためには、文法を学習し、感想文、鑑賞文、意見文など、様々な形態の作文を書く。
- ・ 古典学習を通し、日本の伝統的言語と文化を知るためには、古典の音読や暗唱を通して古来の日本の人々の生活や思いを読み取る。
- ・ 正しい文字の書き方を身に付けるために、毛筆、硬筆ともに、書道の実技に取り組む。
- ・ 重要な部分を聞き分ける力を養うためには、聞き取り試験を行い、メモを取るなど工夫をして聞く習慣を付ける。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・ 文学的文章の思考力を付けるためには、登場人物の心情やものの見方、考え方を読み取り、それについて自分の考えをもち、表現する習慣を付ける。
- ・ 説明的文章の思考力を付けるには、要旨や筆者の主張、根拠を読み取り、論じられている内容について理解し、表にまとめるなど整理する。
- ・ 魅力的で伝わる文章を書く力を付けるためには、様々な詩歌や文章を読み、語彙を増やし、表現技法を用いて書く練習をする。
- ・ 相手に伝わる発表をするには、問いかけなど工夫をしてスピーチやプレゼンテーションをする。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・ 国語の力を付けるためには、1時間1時間の授業を大切にすること。
- ・ 定期的なワークやプリントの提出で、家庭学習の習慣を付けるためには、定期的なワークやプリントなどの課題に取り組むこと。
- ・ 授業への集中力を高めるために、ノートを見やすく工夫して丁寧に書くこと。
- ・ 相互学習で視野を広げるためには、話し合いや意見交流の時間に互いの意見を聞き、自分の意見との共通点、相違点を見付けること。

3 力を伸ばすためのポイント

授業内で話をしたことなどをノートのメモ欄に記入するようにすると、話をよく聞く習慣を付けることができ、授業への集中度が変わります。大事なことを聞き逃さないようにしましょう。

予習・復習にワークや漢字ワークなどを用い、家庭学習の習慣を付けるとそれぞれが学習した内容が定着します。授業だけではなく、家庭学習も大切にしましょう。

国語は考えることが大事な教科です。問われたことはとにかく考え、自分なりの意見をもつようにしましょう。そうすることで、さらに自分の力を伸ばしていくことができるようになるはずです。

4 授業の進め方

週4時間程度の授業を行います。文学的文章や説明的文章、詩歌などに取り組みながら、読解力や思考力を高めていきます。まず説明を聞き、次に作業や自分なりの考えを深めていくことで、理解を深めます。最後に学習事項をまとめて、内容を整理します。

5 持ち物について

教科書、漢字のワーク、国語のワーク、資料集、ノート、タブレット、日常に役立つ文法、書写セット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査、小テスト ・ワークシート、提出物、書写作品 ・授業観察、発表等
思考・判断・表現	・定期考査、小テスト ・ワークシート、提出物、作文 ・授業観察、発表、ノート、スピーチ等
主体的に学習に取り組む態度	・授業観察 ・ワークシート ・提出物（ノート、ワーク、作文等）

7 漢字検定について

第1回 令和7年 6月28日(土)

第2回 令和7年 10月24日(金)

第2学年 社会科 指導者：長崎 秀史

1 スローガン 「社会的事象と自分との『つながり』を知ろう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・標準の力を付けるためには、まず、教科書の太文字やワークに出題された言葉をマークして、覚えましょう。覚えるためには、繰り返しやる必要があります。次に、授業の中で扱われる資料を読み取って分かることを書きましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、覚えた社会の言葉を使って出来事の説明や理由が書けるように練習しましょう。また、レポートなどで図や表、地図などの資料を入れて、自分からも資料を活用していきましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・標準の力を付けるためには、自分の考えや意見、出来事が起こった理由などについて、短くてもよいので書く習慣を付けましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、どうしてそのような結果になったのか、読んだ人が納得できるように、社会的事象の背景や理由、根拠を具体的に書きましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・標準の力を付けるためには、1時間1時間の授業を大切にしましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、授業中、黒板に書いたことを写すだけではなく、積極的に授業を受けましょう。例えば、発言をしたり、黒板に先生が書いたこと以外でも、必要だと感じたことをノートに書いたりしましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

地理は、日本や世界各地の人々の生活に興味をもつことが大切です。その場所に住む人々の生活を扱うのが地理という科目です。今はテレビやインターネットで、世界各地のことが紹介されています。それらに触れてみるのもよいでしょう。

歴史は、出来事が起こった背景を考えることが大切です。重要な歴史上の出来事には、その出来事が重要になった理由が必ずあります。その理由を考えて、自分で説明できるように理解していきます。

今は漫画やテレビなどで、歴史上の人物や出来事を扱ったものが多くあります。それらに触れてみると、より教科書がいきいきしたものに感じられ、興味がもてるようになると思います。

4 授業の進め方

週3時間の授業を行います。前期は地理的分野、後期は歴史的分野に取り組みます。まず説明を聞き、次に作業に取り組んで理解を深めます。最後に学習事項を文章でまとめて、内容を整理します。

5 持ち物について

教科書、地図帳、ワーク、プリントを綴じるファイル(1年次のものを継続)、タブレット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ ワークシート ・ 提出物 ・ 学習事項の発表活動
思考・判断・表現	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ ワークシート ・ 提出物 ・ 学習事項の発表活動
主体的に学習に取り組む態度	・ 定期考査 ・ 単元テスト ・ ワークシート ・ 提出物 ・ 学習事項の発表活動

第2学年 数学科 指導者：武村 恵美・和田 耕一

1 スローガン 「日々の積み重ねが力になる！」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

標準的な力を付けるためには

- ・板書事項や大切だと思う事項を丁寧にノートにとろう。
- ・例題の解き方をよく理解しよう。
- ・必要な途中式をきちんと書こう。
- ・問題集の基本問題を何問も解いて、解き方に慣れよう。解いたら必ず答え合わせをし、間違えた問題は、解答を見ながらやり直すか、先生や友達に質問しよう。

発展的な力を付けるためには

- ・必要な途中式を書き、素早く見直しができるようにしよう。
- ・問題を解く際は、時間を意識してみよう。

観点〈思考・判断・表現〉

標準的な力を付けるためには

- ・自分と違う解法が紹介されたらきちんとノートにとり、その解き方をなぞって理解しよう。

発展的な力を付けるためには

- ・解いた問題に別の解法がないか考えてみよう。自分の考えを、数学的な表現を用いてまとめてみよう。
- ・他の領域や教科との関連について調べてみよう。分野によっては理科や社会等の教科との関連で興味深い事柄が発見できる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

力を付けるためには

- ・分からないことを質問するなど、授業に積極的に参加しよう。
- ・忘れ物をしないようにし、今まで以上に提出物の提出期限をしっかりと守ろう。
- ・気付いたことや大切だと思うことを、ノートにメモすることを習慣にしよう。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・次の授業までに、前回の学習内容を復習することを習慣にする。
- ・分からないところは、そのままにしないで質問する。

4 授業の進め方

各クラスを2分割（標準・発展）し、習熟度別少人数による授業を行う。

〔担当教員〕

	標準	発展
1・2章	武村	和田
3章	和田	武村
4・5章	武村	和田
6・7章	和田	武村

5 持ち物について

教科書、ノート、ファイル、タブレット、問題集「よくわかる数学の学習」

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査 ・单元テスト ・小テスト ・ワークシート
思考・判断・表現	・定期考査 ・单元テスト ・小テスト ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・定期考査 ・問題集 ・小テスト ・ワークシート

7 数学検定について

第1回 令和7年 6月21日(土) 9:00～

第2回 令和7年10月26日(日) 13:00～

第2学年 理科 指導者：山本 義和

1 スローガン 「自ら疑問を生み出し、仮説を立て、検証して科学事象を理解しよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

標準的な力を付けるためには

- ・授業の内容を授業プリントに、見やすく、分かりやすく書きましょう。
- ・授業で習ったことを、教科書、授業プリント、レポート等で見直しましょう。
- ・問題集やプリント等で分からないところは、自分で調べて答えを出してから、答え合わせをしましょう。
- ・分からないところがあったら、先生にすぐ聞きましょう。
- ・観察・実験の中で器具の基本操作が身に付くように自ら取り組み、教科書やレポートで復習しましょう。
- ・観察・実験の結果を記録し、グラフにする方法を身に付けましょう。
- ・様々な資料を活用し、観察・実験の結果を整理しましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・必要な途中式を書き、素早く見直しができるようにしましょう。
- ・設問に惑わされず、法則に立ち戻って考えましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

標準的な力を付けるためには

- ・様々な事物や現象に、疑問を考えよう。
- ・抱いた疑問を解決するための仮説を自ら立ててみよう。
- ・観察・実験の目的を意識して行い、結果には自分の考えをまとめましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・自ら立てた仮説を確認する方法と科学的な根拠を考えましょう。
- ・観察・実験の結果について、先生や友達に自分の考えを説明できるようにしましょう。
- ・他の人の意見を聞き、その意見について他の人と話し合ってみましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

標準的な力を付けるためには

- ・授業プリントを記入し、レポートを書き、忘れ物をせず、提出物は期日を守って提出しましょう。
- ・授業で先生の話をしっかり聞き、疑問に思ったことは積極的に質問しましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・科学的な根拠に基づいて考えた自分の意見を発表しましょう。
- ・先生の話の中で大切だと思ったことは、授業プリントに書き留めましょう。
- ・観察・実験では、班の中心になって活動をリードしましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

理科事象は、常に起こっています。その現象には法則があり、その法則には原理があります。原理を理解し、法則を使いこなせるようにしましょう。法則の原理の理解度を図るために定期考査があります。定期考査では、いろいろな条件を加えたり質問の仕方を変えたりしますが、原理に立ち戻って考えることで、条件の意味や問題の意図が見えてきます。授業内でも実験や問題演習をするので、訓練していきましょう。

4 授業の進め方

- ・理科では、「物理」「化学」「生物」「地学」の四つの分野を学習します。
 - ・単級（クラス全体）で授業を行います。
 - ・理科室での実験を多く行います。危険な薬品や器具を使うこともあるため、先生の話をしっかり聞き、安全に実験を行っていきましょう。
- ※理科室でのルールについては後日説明します。

5 持ち物について

教科書、ノート、理科の完全学習、色ペン（最低でも赤と青の2色）、定規、のり

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・実験手順や器具の操作（行動観察） ・提出物（レポート） ・小テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・定期考査 ・提出物（レポート）主に考察 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	・授業に取り組む姿勢・態度 ・提出物（授業プリント、問題集、レポート、プリント） ・定期考査

第2学年 音楽科 指導者：田中 広輝

1 スローガン 「主体性をもって様々な音楽に親しみ、表現しよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

合唱・器楽

- ・歌詞の内容や(旋律や)曲想の表現を工夫して歌う(演奏する)。
- ・曲種に応じた発声(奏法)を心がける。
- ・声部の役割や全体の響きを生かし、合わせて歌う(演奏する)。

創作

- ・言葉や音階などの特徴を感じ取り表現を工夫して簡単な旋律をつくる能力、音素材の特徴を感じ取り反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる。

観点〈思考・判断・表現〉

合唱・器楽

- ・歌詞の内容や曲想を感じ取って表現する。
- ・声部の役割や全体の響きを感じ取り、意図をもって表現する。

創作

- ・言葉や音階などの特徴を感じ取り表現を工夫しようとする。

鑑賞

- ・音楽を形づくっている要素や構造などの理由を挙げながら、言葉で表現する。
- ・自分自身で考え、感じとったことを言葉で表現する。
- ・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連を理解して鑑賞する。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業のルールを守る。(静と動のメリハリ)
- ・授業目標の達成度を高める。(忘れ物しない・音楽を楽しむ)
- ・提出物等の完成度(期日を守る、内容の丁寧さ)

3 力を伸ばすためのポイント

- ・様々な分野の音楽を聴き、良さを味わう。
- ・授業のルールを守り、目標を達成するために前向きに挑戦する。

4 授業の進め方

- ・合唱・器楽等 : 第1音楽室
- ・鑑賞・器楽・創作等 : 第2音楽室

5 持ち物について

教科書3冊（中学生の音楽2、3年の㊤・㊦、器楽）、ファイル、コーラスフェスティバル、ミュージックノート

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査 ・実技テスト ・小テスト ・伴奏指揮の取組 ・提出物（ノート:楽譜等、プリント）
思考・判断・表現	・定期考査 ・実技テスト ・聴くテスト ・提出物（ノート:鑑賞文等、プリント） ・練習過程
主体的に学習に取り組む態度	・小テスト ・伴奏指揮の取組 ・提出物（ノート、プリント、宿題等） ・授業態度と練習過程

第2学年 美術科 指導者：植木 広子・神谷 菜生花

1 スローガン 「自分らしさを表現しよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

制作

- ・材料や道具の性質を生かし、計画的に制作を進めましょう。
- ・学んだ知識を生かし、制作の意図やコンセプトをアイデアスケッチにまとめましょう。
- ・本やタブレット等の資料や、友達の助言を活用して制作に取り入れましょう。

鑑賞

- ・美術作品の特徴や、その背景となる文化・歴史、他の芸術との関連を理解しましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

制作

- ・絵や文章で具体的にアイデアスケッチをまとめましょう。
- ・課題に合わせて、表現技法や画材を工夫しましょう。
- ・課題に合わせて自分の作品の「主題（テーマ）」を設定し、表現しましょう。

鑑賞

- ・美術作品の美しさを感じ取り、自分の気持ちや考えを言葉で表現しましょう。
- ・自分の考えを発表しあったり、話し合ったりして学びを深めましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業のルールを守りましょう。
- ・具体的な目標を立て、達成に向けて取り組みましょう。
- ・自分の作品に最後まで粘り強く向き合いましょう。
- ・提出物の完成度や期日を意識して取り組みましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

授業を通して、人として大切な「考える力」を学ぶのが美術です。2年生の美術では、「自分らしさ」を追求し、自分の内面と向き合いながら制作に取り入れましょう。また、定期考査では選択問題、記述問題、実技問題を出題します。授業で学んだことを復習し、テストに臨んでください。

4 授業の進め方

導入説明・制作・鑑賞会をします。制作は、4週～5週にかけて一つの作品を作ります。また、制作期間中は、毎回「どこまで制作を進めるか」の計画を自分で立てます。

5 持ち物について

教科書、資料集、タブレット、プリント用ファイル、鉛筆

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ <u>定期考査</u> ・ アイデアスケッチ ・ 作品 ・ ワークシート ・ 授業の様子
思考・判断・表現	・ <u>アイデアスケッチ</u> ・ <u>作品</u> ・ ワークシート ・ 授業の様子
主体的に学習に取り組む態度	・ <u>制作レポート</u> ・ 提出物 ・ 作品 ・ 定期考査 ・ 授業の様子

第2学年 保健体育科 指導者：齊藤 泰弘・大澤 香

1 スローガン 「生涯にわたって、スポーツに親しみ、心身ともに健康で豊かな生活を送る」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・基礎的な知識（健康について、ルール、技能の名称、体の動かし方等）、技能を身に付ける。
- ・運動の特性、練習方法や健康について科学的に理解する。
- ・何度も練習をして、基本的な技能を習得する。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・授業で身に付けた知識や技能を活用して、自己分析、チーム分析をして何が必要か考える。
- ・自己分析やチーム分析したことを仲間に伝え、共に課題解決をする。
- ・課題解決のために必要な練習方法等を工夫する。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・自らの意思で学ぼうとする。特に、あきらめずに粘り強く努力する。上手くいかないときこそ、どうしたらできるようになるか試行錯誤する。
- ・分からないことや新しい知識を自ら調べ、実践する。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・とにかく挑戦すること。やってみることで次につながるきっかけとなる。授業で取り扱うスポーツ全てにおいて、できるかできないかではなく、やってみることが大事である。挑戦しない人は何も変わらない。そして、ひた向きに努力すること。
- ・仲間を大切に！協力して準備・片付けをしたり、アドバイスをしたり、褒めたり、応援したり等。一人では難しいことも仲間とならできることがある。
- ・上手な人だけが活躍するのではなく、得意な人も不得意な人も全員が楽しいと思える授業にする。そのために何をしたら良いか常に考えて行動すること。

4 授業の進め方

- ・基本的にクラス単位で授業を行う。
- ・何よりも時間を大切にすること。50分間をいかに無駄にしないかが大切。始業チャイムが鳴り終わるまでに活動場所で整列が完了し、体育係の指示で、体操が始められるとさらに良い。
- ・先生の話は、「耳で聴く！」「目で聴く！」「体で聴く！」先生からの指示があるときには、すぐに話が聞ける姿勢をつくる。保健の授業では、板書だけでなく、先生が話していることもメモをして、さらに知識を増やす。
- ・行動は素早く、機敏に。集合がかかったら走って集合すること！
- ・体育の授業を見学する場合には、保護者から理由を記入してもらった紙に押印してもらい、授業前に提出する。同じ理由で長期に見学となる場合、おおよその期間を記入してもらうと良い。原則として毎回提出。服装については、ふだんと同じように体育着またはジャージで見学する。

5 持ち物について

【体育分野】 学校指定の体育着（サブTシャツも可）、運動靴

※ ジャージの着用については気温に応じて指示する。

※ インナーの着用は認めない。

※ 髪の毛が長い場合は、髪を結ぶ用のゴムを持参する。

※ アクセサリー類は一切身に付けない。時計やヘアゴムも外す。

【保健分野】 教科書、筆記用具

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ 定期考査 ・ 実技テスト
思考・判断・表現	・ 学習カード ・ まとめレポート
主体的に学習に取り組む態度	・ 授業態度 ・ 学習カード ・ 保健の課題提出

第2学年 技術科 指導者：磯部 正則

1 スローガン 「心に残る作品を作ろう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・授業中しっかり話を聞いて理解し、必要なことはノートにまとめ、覚えましょう。
- ・作業内容を理解し、自ら進んで作業に取り組みましょう。
- ・作業は正確に、また丁寧に取り組みましょう。
- ・作品は必ず提出日までに完成させましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・課題の内容をよく考え理解し、丁寧に作品を作りましょう。
- ・課題に対して疑問をもち、見方、考え方を働かせながら真剣に取り組みましょう。
- ・ノートやレポートに、作業等において理解したことや工夫したことなどを記述しましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業中は意欲をもって真剣に取り組みましょう。
- ・作品は必ず提出日までに完成させましょう。
- ・進んで作業に取り組みましょう。
- ・ノートには、板書したことだけでなく、作業等において気が付いたことや学んだこと、理解したことなど、必要と感じたことなどをまとめておきましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・いつも技術の仕組みや原理などに興味をもちましょう。
- ・日頃からいろいろな作品を見て、どう組み立てているのか考えるようにしよう。またその立体を描いてみよう。

4 授業の進め方

- ・2年生は週1時間の授業ですので、授業を真剣に取り組み、忘れ物等しないようにしましょう。
- ・授業ごとにその日の作業内容と、1，2週間先までの作業の流れを説明し、作業に取り組ませます。
- ・安全に配慮し、作業等に取り組ませます。

5 持ち物について

教科書、A4サイズのノート、のり（プリントをノートに貼るため。）、
油性マジック（材料、入れ物に名前等を記入するため。）

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ 定期考査 ・ 実技テスト ・ レポート ・ 製作過程 ・ 授業の様子 ・ 製作品 ・ ワークシート（提出物）
思考・判断・表現	・ 定期考査 ・ レポート ・ 製作過程 ・ 授業の様子 ・ 製作品 ・ ワークシート（提出物）
主体的に学習に取り組む態度	・ 製作過程 ・ 授業の様子、授業への取り組み ・ 製作品 ・ ワークシート（提出物） ・ レポート

第2学年 家庭科 指導者：升田 祐子

1 スローガン 「生活に役立つ小物づくりを通して、衣生活を豊かにしよう。」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・授業の内容は、ノートやプリントに分かりやすく書く。
- ・教科書の太字やプリントやワークに登場した言葉をマークする。
- ・作業のポイントをしっかり頭に入れて、実習に取り組む。
- ・材料や道具を活かし、計画を立てて製作をすすめる。
- ・自分の言葉で説明したり、理由を書いたりする。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・想像力を働かせて、授業の内容と生活を関連付ける。
- ・生活に関わる事物に疑問をもつ。
- ・「なぜそうなるか」自分の考えをまとめて友人や先生に説明する。
- ・他の領域や教科との関連について調べる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業規律を守る。
- ・提出期限を守る。
- ・自分や友人を傷付けぬように、安全に留意する。
- ・準備や片付けなど、分担した役割に積極的に取り組む。
- ・板書の内容と、授業中の話の中で大切だと思ったことは書き留める。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・授業で強調したこと（何度も説明したこと、大きな声で説明したこと、色のチョークを使って板書したことなど）は、もらすことなくメモをするか色ペンで印を付ける。
- ・10分間でよいので、その日のうちに復習する。
- ・実習は慎重かつ真剣に取り組む。
- ・作品の提出期限を守れるように最大の努力をする。
- ・プリントやノートは予告なく回収しても自信をもって提出できるようにまとめる。

4 授業の進め方

- ・教科書・ノート・ワークを用いて進める。
- ・実習は、道具の使い方や基礎技法、ポイントを確認してから始める。

5 持ち物について

教科書、ワーク、ノート、その他指示した物

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ 定期考査 ・ 作品 ・ プリント・ワーク・ノート
思考・判断・表現	・ 定期考査 ・ 作品 ・ 授業の取組 ・ ノート ・ ワーク ・ プリント
主体的に学習に取り組む態度	・ プリント・ノート・ワーク ・ 授業の取組 ・ 作品

第2学年 英語科 指導者：高木 誠・小菅 直輝

1 スローガン

「英語をたくさん聞いて、話して、読んで、書いて、自分の考えや思いを表現できるようになろう！」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・学習した単語や連語を覚える。文のしくみや語順を理解する。
- ・ワークやプリントの問題を繰り返し行う。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や分を用いて、話したり書いたり、伝え合うようにする。
- ・単語テスト等にしっかり取り組み、基礎学力を身に付ける。
- ・教科書の本文を、意味を考えながら何度も音読する。
- ・授業で触れた国や言語・文化について考え、内容を理解し、知識を深める。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・基本文（Key Sentence）を覚えて言えるようにし、表現できるようにする。
- ・学習した新文型等を用いて、自分の気持ちや考えを話したり、書いたりできるようにする。
- ・発表活動に意欲的に取り組む。
- ・教科書やそれ以外の英文を聞いたり、読んだりして、大まかな内容をつかめるようにする。
- ・知らない単語があっても、その意味を推測しながら、読んだり書いたりする。
- ・ALT が話す英文を集中して聞き、理解できるようにする。
- ・繰り返し英文を聞くことで、リスニング問題に慣れる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・何でも意欲的に学ぼうとする前向きな気持ちをもつ。
- ・授業に集中し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- ・発表活動に積極的に取り組む。
- ・発音や音読等は、声に出して練習する。
- ・家庭学習をしっかり行い、提出物は期限を守って提出する。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・教科書本文の音読を意味を考えながら行う。
- ・デジタル教科書や ELSA を用いて、新出単語や本文の音声を何度も聞いて音読したり、聞いた英文を読んだりすることに慣れよう。
- ・ディクテーション（音声を聞き、ノートに英文を書き写す勉強法）を繰り返し行う。
- ・新しい単語を意味が分かるようにする。
- ・文章の概要をとらえることを意識する。1年次と比べて倍以上の英文を読むことになる。
- ・発表等にはしっかり準備と練習をして臨む。

4 授業の進め方

- ・ 1 クラスを二つに分け、少人数による授業を行います。
Aグループ：2年1組教室 Bグループ：第1英語学習室

5 持ち物について

教科書、ワーク、ノート、BINGO、ファイル（ピンク）、タブレット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・ 定期考査 ・ 小テスト（単語テスト、単元テスト等） ・ パフォーマンステスト ・ スピーキングテスト
思考・判断・表現	・ 定期考査 ・ 小テスト（単語テスト、単元テスト等） ・ パフォーマンステスト ・ スピーキングテスト
主体的に学習に取り組む態度	・ 授業への取り組み態度 ・ 提出物（ワーク、ノート、プリント等） ・ パフォーマンステスト ・ スピーキングテスト

7 英語検定について

- 第1回 令和7年 5月30日(金)
第2回 令和7年 10月3日(金)
第3回 令和8年 1月23日(金)